

「学童期の子どもたち」… 家庭と学校という大きな生活拠点がありつつ、地域との関わりを増やしていく年代
「次の親になる世代」として育っていく

学童期の子どもたちが、幅広く人とふれあい(様々な世代や職業など)、学びあう機会を持つことで、子どもたち自身の視野が広がる。
「人との関わり方を学ぶ」「親のことを再認識する」「社会の仕組みの一部を知る」ことにつながるのではないかな。

例えば、

異年齢とのふれ合い…乳幼児とふれあう。乳児健診のお手伝いや 保育所や幼稚園での体験など。

親世代とふれあう。自分の親だけでなく、他の親たちとのかかわり。職場体験。

高齢者とふれあう。地域にいる老人とのつながりを持てる場づくり。施設での体験など。

子どもが地域のこと(廃品回収や掃除、お祭りなどの行事)を手伝ったり、参加することので、大人も子どももお互いに顔見知りになり、また街の中で再会し、声を掛け合うことでも、地域の中へ入っていけるのではないかな。

子どもが学校生活(勉強や部活)以外のことを体験していくことで、外へ目が向くことへのキッカケ作り。

大人も子どもと関わることで、いつもとは違う「気づき」が生まれ、大人も成長し、「こういう大人になりたいな」という子どもたちへのモデルになる。

子どもがいろんな世代の人と関わることで、子ども自身の成長につながり、そして地域の活性化にもつながるのではないかな。

それには「オープンな街づくり」「わかりやすい街づくり」も 必要ではないかな。

「おーえんず倶楽部」の活動記録

「おーえんず倶楽部」は、大津町すべての子育てを応援していく取り組みを推進するための舞台です。

PREFACE

- 平成15年7月、「児童福祉法の一部を改正する法律」「次世代育成支援対策推進法」(以下「次世代法」という)が国会で成立。市町村や事業主等は次世代育成支援に関する「行動計画」の策定が義務づけられました。
- 大津町は、これまでの子育て支援施策の推進や「オーエンス」などの取り組みが評価され、国から、全国に先駆けて「行動計画」を策定するモデル市町村に選ばれ、平成15年度末をめどに策定することになりました。この「行動計画」の策定にあたっては、サービス利用者として、あるいは地域の子育て支援の担い手として、幅広い住民の意見を反映させていくことが必要不可欠です。
- こうしたことから、このたび、大津町の「行動計画」を住民参加のもとに策定していくための協議の場として、「おーえんず倶楽部」を設置することにしました。そして、「行動計画」策定後は、地域全体で子育て支援に取り組んでいくための基盤となる住民組織として発展できたらと考えています。
- 昨今の子どもと子育てをめぐる状況は深刻さを増しています。大津町が活力あふれる町であり続けるためにも、子どもたちが健やかに育つための環境をどう創っていくか、子育て中の家族をどう温かく支えていけるか。「子どもにとっての幸せ」を原点に、今こそ、住民一人ひとりができることをともに考え、行動していくときです。「おーえんず倶楽部」は、地域におけるそうした「子育て機能の再生」を住民自らがプロデュースする舞台にしたいと考えています。

ぜひ、積極的なご参画をお願いします。

INTRODUCTION

今、なぜ、「次世代育成」なのでしょう

最近、「次世代育成」という言葉をよく耳にします。これは、これまでの「少子化対策」「子

育て支援」といった用語に代わり、より広範な意味を含めて、「次代の社会を担う子どもたちが健やかに生まれ、かつ育成される」ための取り組みを総称する言葉として使われるようになりました。

○家庭や地域の子育て力の低下に対応し、国は、平成15年3月、次世代を担う子どもを育成する家庭を社会全体で支援していくために「次世代育成支援に関する当面の取組方針」を決定。平成15年7月には、すべての子育てで家庭における児童の養育を支援する「児童福祉法の一部を改正する法律」、そして、今後10年間、国をあげて次世代育成支援に集中的に取り組むための「次世代育成支援対策推進法」が相次いで成立しました。

○こうした背景には、幼児虐待など子どもの養育をめぐる保護者と子どもの状況の深刻化があります。特に、最近、子育て中の母親をとりまく子育てで不安や負担感の増大が大きな問題となってきました。

○都市化が進み、夫婦と子どものみで構成される世帯、いわゆる核家族は増加の一途をたどり、近隣との関係は非常に希薄になっています。こうした中で、多くの母親たちは、育児不安を持ち、自分の育児に自信が持てず、相談相手もおらず、迷いながら子育てをしている——子育ての密室化、孤立化——状況に陥っています。こうした状況は、子どもの健やかな育ちにとっても問題です。

○今、地域には、こうした母親を受け入れ、育児不安を解きほぐしながら、母親が母親になっていくことを支えてくれる空間と人のつながりが求められています。子どもにとっても、社会性を育みながら健やかに育っていくために、母親以外の大勢の人間関係(同年齢、異年齢の子どもたちや子育ての先輩たち)が必要です。

○大津町は、親が育ち、子どもが健やかに育ち、子育ての先輩たちも育ちながら、それぞれが地域の中で居場所を見出し、子育ての喜びや価値を地域全体で共有できるまちにしたい。「おーえんず倶楽部」がめざすところは、このまちで生まれ、育ったすべての子どもが「生まれてきてよかった」と実感し、自ら進んで貢献したいと思えるような地域社会を住民みんなで築いていくことにあります。そして、それこそが、大津町が目標とする次世代育成支援の姿です。

CONSTRUCTION

「おえんず倶楽部」の基本的な枠組み

項 目	内 容
●位置づけ	○次世代法第21条第1項 ^(※1) に基づく次世代育成支援対策地域協議会として設置
●構成	○平成14年発足した「オーエンズ・ストリート座談会」 ^(※2) を発展・改組し、約50人の町民で構成 ○倶楽部に4つのワークショップを置き、メンバーは、いずれかのワークショップに所属 ○倶楽部に代表を置く ○ワークショップにそれぞれリーダー及びサブリーダーを置く ○代表とワークショップのリーダー、サブリーダーで構成する世話人会を設置
●役割	○「大津町行動計画策定に向けた基本方針」(平成15年10月2日大津町次世代育成支援行動計画委員会決定)に沿って、以下の内容について、ワークショップ方式で検討 ①商店街を活用した子育て支援機能の集約と展開(「オーエンズ・ストリート構想」の具体化) ②子育て支援施策及び地域全体で取り組むべき子育て支援に関する提言など ○検討された結果は、大津町行動計画の理念や目標、重点施策などに反映
●運営	○ワークショップは、代表名で招集し、おおむね月2回開催 ○倶楽部総会及び世話人会は、必要に応じて開催 ○事務局は町福祉課(県子育て・介護支援推進課、熊日情報文化センター協力)

※1「地方公共団体…その他の次世代育成支援対策の推進を図るための活動を行う者は、地域における次世代育成支援対策の推進に関し必要となるべき措置について協議するため、次世代育成支援対策地域協議会を組織できる。」

※2子育て支援を新たなかたちの地域創生に結びつけていく観点から、町の中心部にある商店街を舞台に、町や社協などの公的な子育て支援施設を核に、子どもの育ちと子育て中の家族を応援するコンセプトの「通り」を創る構想を話し合う会

WORKSHOP

ワークショップの概要

WORKSHOP I 子育てが楽しいまちづくりのデザイン

- 赤ちゃんを連れていると、バスに乗るときも、スーパーのレジでも周りに気をつかうことが多くて、緊張し、疲れてしまう。ベビーカーを押して、まともに歩ける道も、入れるお店も少ない……。
- 子育てという大きな仕事をしているお母さんたちが、どうしてこんなに気兼ねしながら生活しているのでしょうか？
- このワークショップでは、乳幼児を抱えるお母さんたちが、周りに余計な気兼ねをすることなく、気軽に子ども連れで外出できるまちにするためには、どうしたらいいか？ そのための施策や取り組みをデザインします。

WORKSHOP II 次世代の親材育成デザイン

- 現在の子どもたちは、次世代の親です。最近のお母さんたちの中には、産まれて初めて触る赤ちゃんが、自分の赤ちゃんだったということも珍しくなく、どう扱ったらいいか本当に戸惑うそうです。また、最近、命の尊さということがあまりにも忘れられているような事件も多くて……。
- このワークショップでは、子どものときから、親となるための教育体制をどう楽しく具体化していくかデザインします。

WORKSHOP III オーエンズ・ストリート・デザイン

- 昨年からのテーマです。子育て支援機能の集約、各お店の創意工夫による小さな子育て支援の取り組みによって、新しい商店街をデザインします。
- このワークショップでは、「オーエンズ・ストリート」実現のための具体的な方策を盛り込んだ青写真をつくります。

WORKSHOP IV 大津町こども未来戦略デザイン

- 「日本一、子育てが楽しいまち」づくりを進めることは、大津町にとって新たな未来を築く戦略にもなるのでは！？
- このワークショップでは、「子育て支援のまちづくり」を超えた「子育て支援でまちづくり」をキーワードに、子育て関連企業の集積をねらった新たな企業誘致のアプローチなど、この町が絶えず若々しいまちであり続けるための未来戦略をデザインします。

WORKSHOP - FLOW

ワークショップの進め方

- ワークショップのテーマは、目標設定型としています。したがって、各ワークショップでは、それぞれのテーマに沿って、まず、メンバー間で、「理想の姿」「あるべき姿」について話し合い、その姿を描きます。
- そして、その理想あるいはあるべき姿を実現するためには、本人はどうすればよいか、家族はどうすればよいか、近隣や校区単位ではどうか、事業所や行政は何をすべきか、といった具合に、理想を現実化していくための条件をどんどん積み上げて、結びつけ、整理して全体をまとめていきます。

あるべき姿（理想）は？



そのための条件は？



その、そのための条件は？



実際行うこと

(本人、家族、地域、事業所、行政)

WORKSHOP I

子育てが楽しい
まちづくりのデザイン

乳幼児を抱えるお母さんたちが、周りに気兼ねをすることなく、気軽に子ども連れで外出できるまちであるためには、どうすればいいかを考える

「子育てが楽しいまち」とは……

- ①子どもにとっても親にとっても魅力あるまちであること
 - ・子どもの遊び場が充実している
 - ・これから親になっていく世代（中学生）との交流がある
 - ・子どもとともに日常生活が無理なく送れるよう店舗が充実している
- ②安全で快適に子育てできるまちであること
 - ・安心して子どもと手をつないで散歩できる道路がある
 - ・託児サービス、子どもの病気時の預かりサービスがある
- ③親も地域も子育てに対する意識を向上させなければならないこと
 - ・親として子育てをしているという意識をしっかりと持つ
 - ・みんなで声を掛け合えるような地域

WORKSHOP II

次世代の親材育成デザイン

いい親となるための方法や教育姿勢を、どう楽しく具体化していくかを考える

「こんな親が育つといいな（子どもがその姿を見て育っていける、子どもとしっかり向き合える）」

- 親子関係の理想像
- ①子どもときちんと向き合える親
 - ②子どもと話ができる親
 - ③しつけができる親
 - ④家庭で理想の食事ができる親
- 親本人の理想的な姿
- ⑤夫婦仲がよい親
 - ⑥思いやりのある親
 - ⑦魅力ある見本となる親

WORKSHOP III

オーエンズ・ストリート・デザイン

子育て中の人や子どもへの支援機能を商店街だけでなく、各店が創意工夫し、さらに支援機能の集約された新しい商店街づくりを考える

「どんな商店街なら子育て中の人が来るようになるか」

- ①手をつないで歩ける、四季を感じる散歩道がある
- ②車でも気軽に来られる商店街
- ③町の中に楽しい公園があり、暖かい色にあふれたまち
- ④子どもと一緒に買い物や食事ができる商店街
- ⑤楽しい商店街
- ⑥子どもが育ち合うまち
- ⑦人と人のつながりがある商店街
- ⑧医療総合施設がある

(つまり)

子どもと手をつないで並んで歩ける四季を感じる散歩道があり、子どもと一緒に買い物・食事ができ人と人とのつながりがある楽しい商店街

WORKSHOP IV

大津町こども未来
戦略デザイン

子育て支援のまちづくりを超えた「子育て支援でまちづくり」をキーワードに、この町が絶えず若々しいまちであり続けるための未来戦略をデザインする

「子や孫がずっと住み続けたいまちとはどんなまち」

- ①つながりがある
- ②リーダーがいる
- ③場所がある
- ④安全な環境が整っている
- ⑤文化活動が盛ん
- ⑥大人を支援する仕組みがある
- ⑦子どもを支援する仕組みがある
- ⑧子育てをしている人へ特典がある

第3回グループワーク 「そんなまちにするには」

①～③の理想像を実現するには……

その前に、「私たちの意見をどうやって今回の計画に反映していけばいいのか」などの疑問点を洗い出した。

①～⑦の理想像を実現する方法を考えるために

「どのような場面で、どのように育てればそんな理想の親が育つか」さらに「今の大津にどんな条件を整える必要があるか」について話し合った結果、「時間」「機会」「場所」「心構え」の視点が浮かび上がった。

- ・「時間」…親子関係及び親自身の魅力づくりには時間的余裕が必要
- ・「機会」…ふれあい体験、学習する機会づくりをめざす
- ・「場所」…会話をしたり、遊んだりする場所づくり、まちの雰囲気づくり
- ・「心構え」…あいさつをすることや理解、感謝の言葉を口にする、生きがいを持つ

「子どもと手をつないで並んで歩ける四季を感じる散歩道があり、子どもといっしょに買い物・食事ができ、人と人とのつながりがある楽しい商店街」とするためには、まず道に関する問題を解決しない限り先に進みにくいのではないかという提案から、「手をつないで歩ける、四季を感じる散歩道」を整えるための条件を話し合った。

- ・緑、流水、蛍などの自然や、日吉神社という文化遺産を活用する
 - ・商店街の裏側に安心して手をつないで歩け、各店に入れるような散歩道をつくる
- そのためには、「地元企業や行政、警察」や「若い人の協力」が必要

①～⑧の理想像をグループの使命「絶えず若々しいまちであり続けるための未来戦略デザイン」という観点から整理し、①のつながりづくりに絞って戦略を立てることに決定。

水俣市は「環境」をテーマにコミュニティーを再生。中でも「ゴミの分別」に力を入れている。大津町は「子育て」でコミュニティーを再生していく。では、子育てのなかで、具体的にどのようなことに絞り込み、町民の共通のテーマとして落とし込んでいくかの戦略を考えていく。

第4回グループワーク 「そんなまちを実現するためにできること」

●親も地域も子育てに対する意識を高めなければいけない
そのためには……

- ・子育てには人との出会いや人との関わりが大切
 - ・地域全体で子どもを育てていきたい
- そのそのためには……
- ・小・中・高校生と乳幼児との交流を図る必要があること、親や祖父母が小さい子どもや高齢者との接し方を見せていくこと

- 「自分たち」がすべきこと…家族と会話する機会を持つ、地域をつくる
- 「地域」がすべきこと…地域行事の場など育成の場をつくる、人が育つような地域の力をつける
- 「企業や団体」がすべきこと…家族関係のための支援として休みをとりやすくする、地域活動支援により地域行事を行いやすくする
- 「行政」がすべきこと…異世代などでふれあいのための体験の場を提供、また学校での育成、学校と家庭をつなぐなど学校教育との連携に努める

- 「人」ができる子育て支援…子育て中の人々が気軽に立ち寄れる場にするためには
 - ・各店にベビーベッドを置き、おむつ換えや子どもの休憩が気軽にできる
 - ・各店にテーブルといすを置きだれでも休める「一休さん（いっきゅうさん）」スペースを設ける
 - ・子育て中の人々がストレス解消できるようにする
 - ・保育相談や温かいごはんを食べられるところがある

○戦略を練っていくにあたり、町の強み・弱みをあげてみた

- 強み…学校、祭り、病院、企業、福祉施設、子ども、若者、公園が多い
- 弱み…人のつながりがやや希薄。特に退職者（高齢者）と「独身（若者）」のつながりが希薄だと思われる

第5回グループワーク「そんなまち」を実現するためにできること

- 「家族」の重要性…保護者や家族の力を結集して子育てを行う
- 「他人」(地域全体で支えていく重要性)…多くの「他人」(地域の人：ファミリーサポートの協力者や小・中・高校生)が成長していく子どもに関わる
- 「活動の場」…子育て中の人と「他人」(地域の人：ファミリーサポートの協力者や小・中・高校生)の出会いや活動の場(保育園や支援センター等)が必要

↓
出会い・関わりあい・そして支え合う

○育成場面ごとにみると

- 「家庭」「企業・団体」…親の気持ちや姿勢を理解するために職場見学や子どもと親の心をつなぐ方法(手紙、カウンセリング)などの提案
- 「学校」…教育カリキュラムに町独自の育児教育を追加
- 「地域」…老人会など他世代との交流により視野を広げる

●自分の店ができる子育て支援

- ・ちょい(時間の)子ども預かり
- ・ちょい(時間の)出張子守り
- ・ちょい持って帰れる離乳食のレシピ提供
- ・買い物などがしやすいよう、店の中に子どもをちょっと遊ばせるスペース
- ・安心、安全な食材の提供
- ・妊婦から子どもまで安心、安全な薬の紹介

●「つながり」を深めるには……

- ・日常生活の場に「つながり」を求めるよりも、日常生活の場から少し離れたところに「つながり」を求める方が入りやすいということで、みんなが気軽に集える場「公園」をつくる

- ↓
- ・公園の名前は「お一えんす公園」。遊びながら、学べて、人の温かさにふれられホッとする公園

第6回グループワークまとめ

- ・人と人との出会いを大切に
- ・関わりあい
- ・そして支え合っていく
- …これが実現するとき、決して周りに気兼ねなどせず、ゆとりを持って、地域みんなで子どもを育てることができるまち「大津」になっていくのではないのでしょうか。

「理想の親」が育つには……

命の大切さを教える取り組み、障害児と健常児が小さいときから一緒に学び生活できる環境整備、育児のちょっとした疑問に答えるQ&Aデータベース、大学生のベビーシッター制度などがあがりましたが、「一つひとつがバラバラに動くのでは意味がない」「体験したらそれで終わりではなく、本当に身につくように」ということが大事ではと考えました。そのために、いろいろな取り組みを総合的に考え、統括する者(カリキュラム作成委員)が必要ではと考えましたが、実際には委員の募集・就任や活動体制、実行力の度合いなど、いろいろな問題はあります。みなさんのご意見をお聞かせいただければと思います。

すぐにでもできる今後の取り組みとして、それぞれの店がだれでも気軽に休憩できるスペース「一休さん」やおむつを替えられる場所の設置などを考えています。

店ごとにできる子育て支援が店の外からも見て分かるような「子育て支援表示」「子育て支援表示」に駐車場等商店街の情報を加えた「子育て支援マップ」の作成・配布など目に見える支援と、店での会話を通しての支援により、少しずつ商店街の子育て支援活動を広げ、信頼関係を築いていくことがこれからの活動にとって重要だと考えました。

「お一えんす公園」では〇〇〇ができる

- ↓
- ・プレイリーダーがいるから子どもたちだけでも遊ばせられる
 - ・子どもが自由に遊べる
 - ・のんびりひなたぼっこができる
 - ・ふらっと立ち寄っておしゃべりができる
 - …みんなの“できる”を集めて公園でまちづくりをしましょう。